

【第12回 佐賀県豚熱対策本部会議】9月3日（日）10:00

農林水産部長／2例目の殺処分は、9時現在4,748頭。昨夜9時から1,200頭の処分が済み、作業は順調に進んでいる。

埋却溝の掘削は2本完了し、不足に備え3本目を掘削中。フレコンバッグ205袋を投入済み。現場作業員は、246名、延べ人数3,179名。

落合副知事／自衛隊4班、県職員3班体制で継続し、作業は順調に進んでいる。

埋却溝は2本では足りないため、3本目、4本目の場所を決定し、一部工事を始めている。地下水が出たため、工法の工夫をしながら作業を進めていく。4本でも不足が予想されるため、3か所目の場所の検討に入った。

豚舎から埋却処分場までは距離があり道も細い。そこをキャリーという道具で運んでいる。作業効率を上げるため、キャリーとオペレーターを追加投入する。さらに追加するかどうかは、状況を見て検討する。

今日は、37度の予報が出ている。危険な場合は、作業を中断したり、休憩を長めにするようにする。現場近くで常時水分補給できるように、冷却用資材で涼がとれるよう工夫し、熱中症予防に努めたい。

農林水産部長／殺処分の内容や、自衛隊と県職員の役割分担の報告をお願いしたい。

落合副知事／小型の豚は、県職員がガス処分し、大型の豚は自衛隊が電気処分を担当している。大型の豚は1時間当たりの殺処分が、1班当たり5、6頭ほど。

農林水産部長／母豚の殺処分は、終盤と考えていいですか。

落合副知事／全体が1万頭なので、現時点でまだ半分。大型が多く残っているため、1日当たりの処分数は上げられない。しばらく続くと覚悟してほしい。

農林水産部長／埋却溝は、4本を掘削予定ですか。

落合副知事／4本は確定。しかし、3本目、4本目の場所で地下水が出た。4m掘るところ、浅めにする工夫が必要になるだろう。その場合、容量が不足するため、3か所目に5本目の掘削溝が必要になる。現在、場所の選定に入っている。

自衛隊／陸上自衛隊西部方面混成団では、200名24時間体制で作業を実施中。今後とも体制を維持して、作業を実施する予定。

県土整備部長／消毒班では、2日0時から24時までの作業台数が、5か所で61台。休

日のため台数は少ない。

暑さ対策として、作業の合間の休憩や水分補給を行い、今のところ問題はない。前回の会議で指摘があった人員増強について、畜産車両の消毒ポイントで検討、調整中。

健康福祉部／3人の県職員が体調不良を訴えたが、回復し帰宅した。内訳は、昨夕2名、明け方1名。現地では、保健師が健康管理への声かけを行っている。

落合副知事／熱中症対策として、物品調達を追加でお願いしている。ぜひ柔軟に対応してほしい。

作業現場の近くで、水や冷たいものを供給したい。作業現場内と外では行き来ができないため運搬が難しい。中だけで動く軽トラックやクーラーボックスの調達、可能であれば、作業現場の近くに休憩用のテントを設置して、休憩しやすくしたい。

自衛隊から、カイロの冷たい版の「ヒヤロン」の提案があった。ビニールパッケージを折ると、2時間ほど冷たいまま身につけられるもの。作業員に持たせると、楽になるのではないかとアドバイスを受けた。可能な限り調達をお願いしたい。

農林水産部長／県庁職員の動員は、1班60人、4班体制で1日240人。所属長や上司は、行く前と帰ってきたあとにできるだけ声をかけ、ケアしてほしい。毎回動員で、夜中から行ってもらってありがとうございます。

防災監／現場は、安定して動いている状況ですか。

落合副知事／現場での問題点は、殺処分した豚を入れたフレコンバッグを、埋却場所まで効率よく運ぶ方法。殺処分の数より、運ぶ数が少なく、埋められないフレコンバッグが増えている。その処理能力を上げるのが課題。

熱中症対策に配慮し、健康面に注意しながら進めたい。

防災監／防護服を着ると、歩くだけでも負荷がかかる。その上、搬出には細い道を歩いて7、8分かかる。離れた場所に持って行くので、効率が上がりにくい。過酷な環境の中、事故が起こらないことが大事。対策本部も全力でサポートする。

今日は気温が上がるため、くれぐれも安全第一で、健康に十分留意して作業を進めてほしい。

防疫作業を進めながら、感染拡大も防止していく。既に抗体ができているとの情報もある。万が一のリスクも想定し、臨機応変に対応できるように、情報共有と連携を図っていききたい。